

平成30年度 第2回 (震災後88回) 陸前高田市未来図会議

平成30年10月19日（金）13:30～15:30
陸前高田市コミュニティホール 大会議室



本日（H30.10/19）の会議の概要

◆テーマ

移動（外出）が人を元気にする

～人が移動することで生まれるつながり
～移動しているものを人が利用することで生まれるつながり

本日（H30.10/19）の会議の進め方①

◆タイムスケジュール

（1）はじめに

①未来図会議について

陸前高田市 民生部保健課 保健師 佐藤 沙希

②本日のテーマについて

NPO法人 陸前高田まちづくり協働センター
黄川田 美和 氏

本日（H30.10/19）の会議の進め方②

◆タイムスケジュール

（2）市内の移動を支えるための施策について

陸前高田市 企画部まちづくり戦略室
室長補佐 佐藤 勝也

（3）矢の浦地区の移動図書館の活用について

小友町 村上 奎子 氏

本日（H30.10/19）の会議の進め方③

◆タイムスケジュール

（4）参加者のみなさまと

「はまつてけらいん、かだつてけらいん」

⇒ テーマ：

- ・移動について、いま、思うこと
- ・人を元氣にする移動とは
～上手いこと使う、工夫する～

本日（H30.10/19）の会議の進め方④

◆タイムスケジュール

（5）移動（外出）が人を元氣にする

陸前高田市ノーマライゼーション大使

岩室 紳也 氏

未来図会議について

はまかだとは



・**はまつてけらいん**（仲間に入って）、
かだつてけらいん（話しましょう）の略称。

- ・立ち話やご近所でのお茶っこのみ、趣味仲間での集まりなど、いつでも・どこでも・なんでも“はまかだ”。
- ・話を聴いてもらったり、時間を共有することでお互いの心が癒され、安心感が生まれる。



未来図会議とは



住民の生活にかかわる関係者が集まり、住民一人ひとりの**健康で文化的な生活**及び**ノーマラーゼーション**という言葉のいらない**まちづくり**の実現を目指し、震災からの復興に向けた地域にとって望ましい体制づくりに寄与し続けられるよう、**健康や幸せを感じられるまちづくり**に関する中長期的な展望を議論する。

これまで

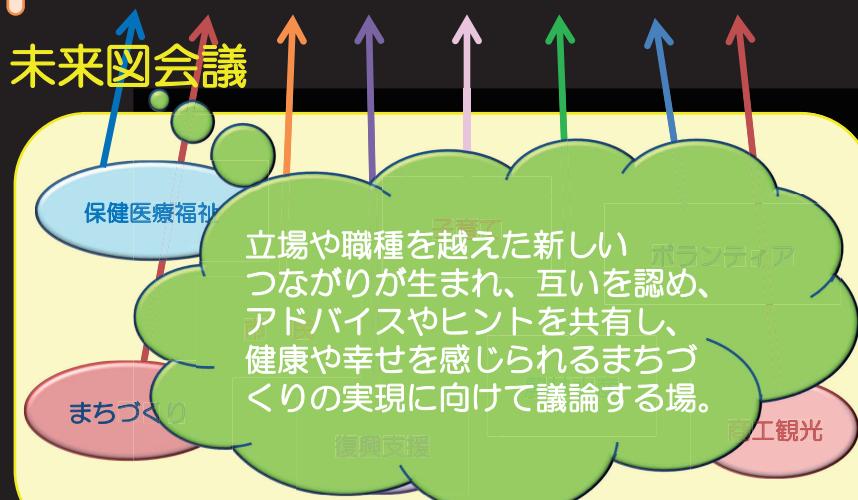
「陸前高田市**保健医療福祉**未来図会議」



これからは

「陸前高田市**未来**図会議」

健康や幸せを感じられるまちづくり



本日のテーマについて

市内の移動を支えるため の施策について



市内の移動を支えるための 施策について

平成30年10月19日

陸前高田市企画部まちづくり戦略室

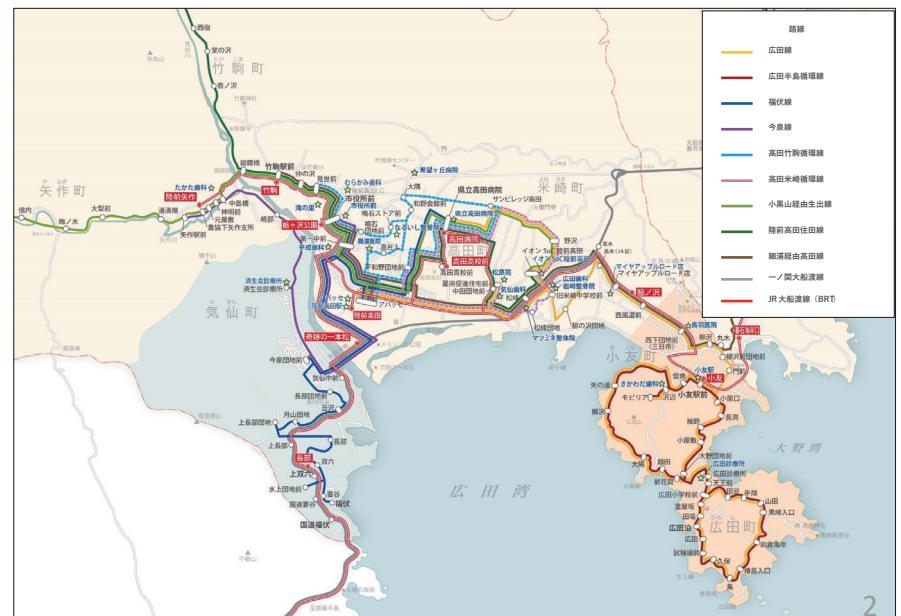


現在の市内の公共交通網



- 1 大船渡線BRT
- 2 路線バス
 - 2-1 自治体の間をつなぐバス
陸前高田住田線、細浦経由高田線など
 - 2-2 自治体の域内で運行するバス
小黒山経由生出線、広田線など
- 3 乗合タクシー
バス車両の代わりにタクシー車両(定員10人以下)を使う路線
- 4 デマンド交通 ⇒ このあと詳しく！

市内公共交通網の大まかな地図(一部変更あり)





公共交通の「ラストワンマイル」

陸前高田市 RIKUZENTAKATA City



「自宅からバス停までも遠くて行けない」という声が
全国で増えている



バス停までの“近くで長い”

「Last 1 mile(最後の1マイル)」
をどう解消するか



公共交通の課題となってきた

3

デマンド交通で使われている車

陸前高田市 RIKUZENTAKATA City



- 通常の路線バスより小型のタクシー車両
- 利用者の自宅前や自宅付近まで行けるメリット

5



ラストワンマイル解決のために①

陸前高田市 RIKUZENTAKATA City



1 デマンド交通

- 気仙町エリアと小友町・広田町エリアで実施
- 自宅前または自宅付近から目的地の停留所まで運ぶ「ドアツードア」が特徴
- 事前登録・事前予約制

平成29年度実績

	登録者数 (カッコ内は前年度比)	延べ利用者数
気仙町エリア	163人(▲9人)	810人(147人)
小友町・広田町エリア	497人(▲8人)	1,839人(▲10人)
合計	660人	2,649人

4



ラストワンマイル解決のために②

陸前高田市 RIKUZENTAKATA City



ラストワンマイル解決のために②

陸前高田市 RIKUZENTAKATA City



2 ふるさとタクシー助成

- 身障者等へのタクシー運賃一部助成を、平成29年度から特定地域に住む免許返納者にも対象を拡大
- 助成券1枚につき500円、月6枚交付

※タクシー初乗り運賃…530円

平成29年度実績(免許返納者等と身障者等の合計)

利用人数	利用枚数	利用額
1,188人	5,370枚	2,685千円

6



ラストワンマイル解決のために③

陸前高田市 RIKUZENTAKATA City



3 支え合い交通

- ・地域住民が自ら仕組み作り
- ・運転手は主にボランティア、車は自家用車
- ・経費は運賃や、世帯の負担金などで賄う

※市では平成27年度に矢作町生出地区で「おいでみんなのバス」という実証実験を実施

7

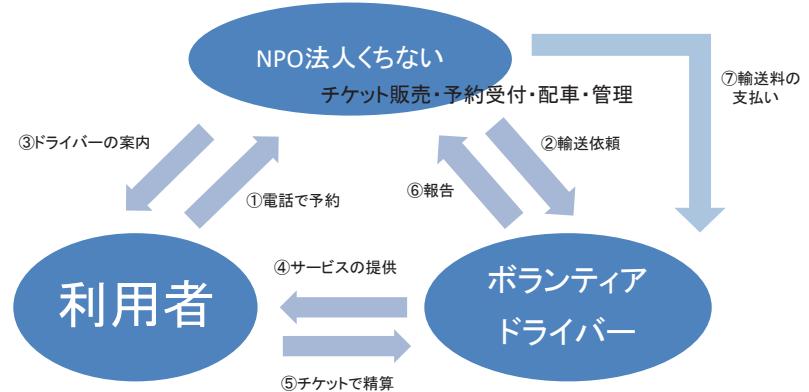


ラストワンマイル解決のために③

陸前高田市 RIKUZENTAKATA City



支え合い交通の例：北上市口内地区「NPO法人くちない」のボランティア輸送



8



ラストワンマイル解決のために④

陸前高田市 RIKUZENTAKATA City



4 コミュニティ・カーシェアリング

- ・自治会や災害公営住宅などで車を共同利用
- ・経費負担、鍵の管理、予約方法などは利用者同士でルールを作る
- ・住民自身が運営することで、カーシェアリングを通じたコミュニティづくりにつなげる

先行事例…(一社)日本カーシェアリング協会

宮城県石巻市などで仮設住宅・災害公営住宅におけるコミュニティ・カーシェアリングを展開 <http://www.japan-csa.org/>

9

矢の浦地区の移動図書館 の活用について

矢の浦地区「移動図書館」



矢の浦地区「移動図書館」



矢の浦地区「移動図書館」



矢の浦地区「移動図書館」



矢の浦地区「移動図書館」



参加者のみなさまと
はまってけらいん かだってけらいん

— テーマ —

- ①「移動について、いま思うこと」
- ②「人を元気にする移動とは
～上手いにと使う、工夫する～」



みんなで、はまかだの 進め方について

ワールドカフェ

目的

自由に意見を出し合い、お互いの思いや考えの背景について探求し、相互理解を深める。

- ×結論を出す
- ×合意形成



意見交換の進め方

意見交換の進め方

- ・テーマ①を紙の中央に書く。
- ・グループ内でテーマ①について順番に話す。
- ・メンバーは、気付きや大切なことを自由にメモする。
- ・模造紙にカラーペンで直接書く。

— テーマ① — 「移動について、いま思うこと」

移動について、
いま、思うこと

1回目

2回目

- ・発表を聞いて、テーマ②について意見交換。
模造紙の空いているスペースに自由にメモ。

- ・1名を残して、他のテーブルに移動。
- ・メモの内容を見ながら、意見交換、メモ。

— テーマ② — 「人を元氣にする移動とは ～上手いことに使う、工夫する～」

◆移動について、いま、思うこと

- ・民間の既存のサービス把握できているか
- ・朝日のある家では送迎を試験的に実施してみたが（火・土）利用者がいない
- ・地域性なのか人に頼らないようにして？
例）乗せると御礼をお届けする…
- ・ヒッチハイク的に「広田方面」など看板を出して、乗せられる人が乗せるのもいいのでは？
- ・街ができた（安全）が、でも不便（高台など）
- ・免許証返納後は？？

◆移動について、いま、思うこと

- ・道路がいつも変わって、昼夜わからない
- ・歩けるところ、自転車のスペース少ない、狭い
- ・コンパクトシティまで時間かかる
- ・竹駒町は今後、店がなくなってしまう
- ・デマンドは地域指定だが、まだ不便なところある
- ・こちらから移動するのではなく、近くに来てくれるのがあるといいのでは？
- ・移動して集まれる場所があれば、積極的に行きたい人など、一緒に移動しようという気持ちになる
- ・コープは口座振込がハードルになっている？

◆移動について、いま、思うこと

- ・来てくれるサービス、往診等も含め、在宅サービス増えるのは便利だが、その人が外に出かけることにながらないのでは？ ⇒結局、はまかだにならない
- ・移動と言えば、高齢者だけなく、難病や障害者も不便を感じている ⇒配慮できる人を増やそう
- ・病院に行く…は頼めるが、自分のため趣味、趣向、生きがいのためにには頼みにくいので、もっと気軽に利用できるようなものがほしいな
- ・遠くに行くことだけでなく、身近にはまかだできること（はまかだから始まる外出） ⇒集会所大事
- ・外出のキッカケが重要

◆移動について、いま、思うこと

- ・バスやタクシーのほかにどんな移動方法あるのか
- ・BRTに乗ったことない
- ・乗り合いバスの便数を増やしてほしい
- ・北上に行けるバスもほしい
- ・誰かに頼むのは申し訳ない（御礼など…）
- ・地区ごとに使える移動方法が違う
- ・デマンド交通をもっと使いやすくしよう
- ・バスの時刻表が変わる、便数が減ったり、増えたりする場合に、事前に話し合いしてほしい
- ・乗り合いの場合の事故など考えると難しい

人を元気にする移動とは
～上手いこと使う、
工夫する～

◆人を元氣にする移動とは

～上手いこと使う、工夫する～

- ・大船渡～仙台線増やしたいが、土日は混むが平日は貸し切りのような状態…安易に言えないな
- ・一関行き、減った（関東方面）が、土日くらいしか利用されていないのかな..
- ・バス停が市役所⇒アバッセへ変更も、アナウンスが十分されていない、わかりにくい
- ・会社間の情報交換（共有）も必要、大事
- ・わかりやすい表示やアナウンス方法を考えていこう

◆人を元氣にする移動とは

～上手いこと使う、工夫する～

Q：介護予防の制度の基準を変えては？

○○に行く活動なら、助成します…など

- ・BRT、障害者補助（100kmで割引）あまり意味ない
- ・スクールバスの共用？
- ・ヒッチハイク、実際に市内でおられるようだ！
ヒッチハイクカードの制度を作つては
乗せる方も乗る方もお互いさま
身元わからると乗せやすいのでは？知り合い増える

◆人を元氣にする移動とは

～上手いこと使う、工夫する～

Q：ではどうしよう？

要求から自立へ ⇒誰がどうするのか？

アイディアを未来団会議等で出し合いましょう。

- ・近所の人乗せてもいいけど、事故あると恐い
個人同士の信頼大事
- ・イベントごとに自宅からの送迎できるシャトルバスなどあると、楽しみ増えるのではないか
- ・寄り合いに公共の制度で使えるものがあるといい

◆人を元氣にする移動とは

～上手いこと使う、工夫する～

Q：ヒッチハイクも信頼関係で

Q：ヒッチハイク制度を行政が？協働できる？

行政：本当に交通・移動で困っている方にはヒッチハイクカードを発行！ ⇒市民同士で活用

- ・近所、顔見知りで乗せ合うのが一番いいけれど、補償のことが不安だね…
⇒無償ではなく、有料で動けるのもいいのでは

◆人を元氣にする移動とは～上手いこと使う、工夫する～

- ・例) 北上市のNPOのような制度を整える
市と協働して、チケットを配付（助成）
- ・スクールバスの利用
⇒学校と家の往復で、地域の人と関わっていない
⇒住民も子どもたちと一緒に乗っちゃう！
一緒に利用することで、相互の交流になる

Q：ボランティア保険（送迎）を利用するのも手
既存の仕組みを活用すること大事

◆人を元氣にする移動とは～上手いこと使う、工夫する～

- ・みんなが楽しく、仲良くできる移動
介護予防の活動：バスツアー、女学生に戻ったようにつながりが生まれる
⇒自分たちで企画、実施できるようになると…
⇒デマンド、支え合い交通など、老人クラブ等に話し合いに行ってはどうか
⇒ワンコインバスも利用者少なければ、1日楽しむために乗るというのもいいのでは、

◆人を元氣にする移動とは～上手いこと使う、工夫する～

Q：自立のための協働を

例) 浦安市：500万を限度に事業経費を市民に支給

- ・乗せれますステッカー
広田に乗せられますレーンのある駐車場の設置
⇒乗せたい人が乗せる状況が生まれるのでは
- ・知られていない情報がたくさんある
⇒情報がしっかり伝わるようにする

◆人を元氣にする移動とは～上手いこと使う、工夫する～

- ・子育て中の家庭も移動はたいへん
例) BRTの体験会をしてみてもいいのでは
乗ることで交流、はまかだになる
- ・集まる場所、集まりたい場所がもっと生まれると、もっとみんな出て行くようになるのでは

Q：BRTに乗って行う介護予防事業ができるのか？
着いた先でまた交流する

「要求」から

「自立」へ

「自立」のための

「協働」へ

自立は、依存先を増やすこと

居場所、絆(きずな+ほだし)、関係性が不可欠

希望は、絶望を分かち合うこと

熊谷晋一郎



https://www.tokyo-jinken.or.jp/publication/tj_56_interview.htm

浦安市 [トップページへ](#)

文字サイズ・配色の変更 Translation service サイトマップ 検索サイト 音声読み上げ
◎ サイト全体から検索 よくある質問から検索 [検索](#)

届出・税・生活 子育て 教育 健康・福祉 保険 生涯学習 スポーツ・交流 市政情報 施設案内 観光

現在位置： [トップページ](#) > [市政情報](#) > [計画・取り組み](#) > [市民参加・協働](#) > [協働事業提案制度](#) > 協働事業提案制度とは

協働事業提案制度とは

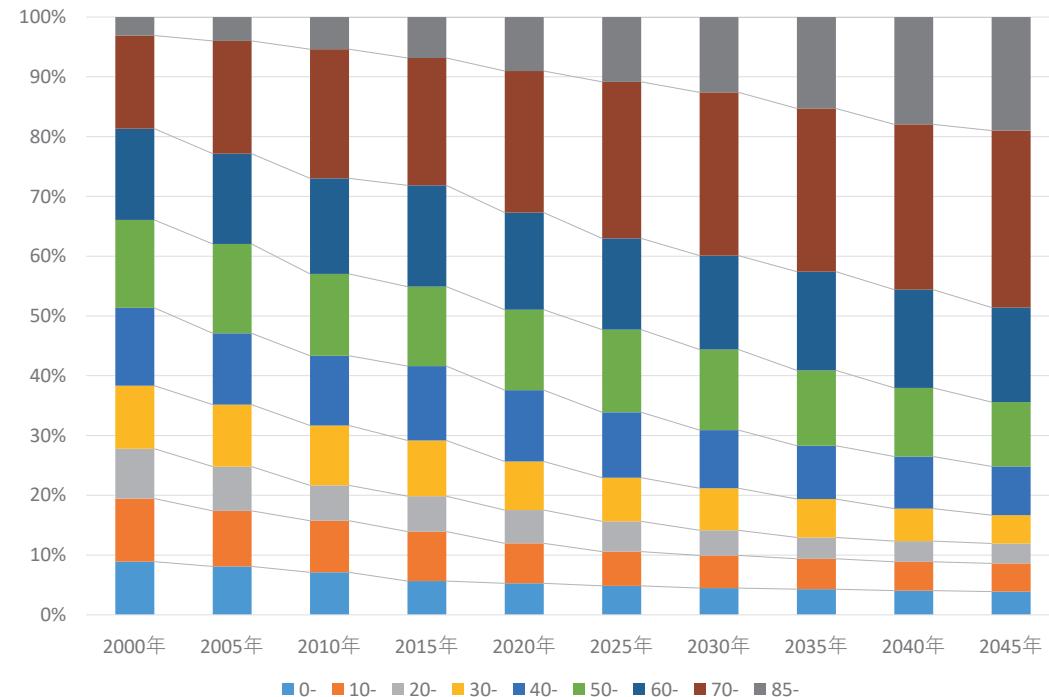
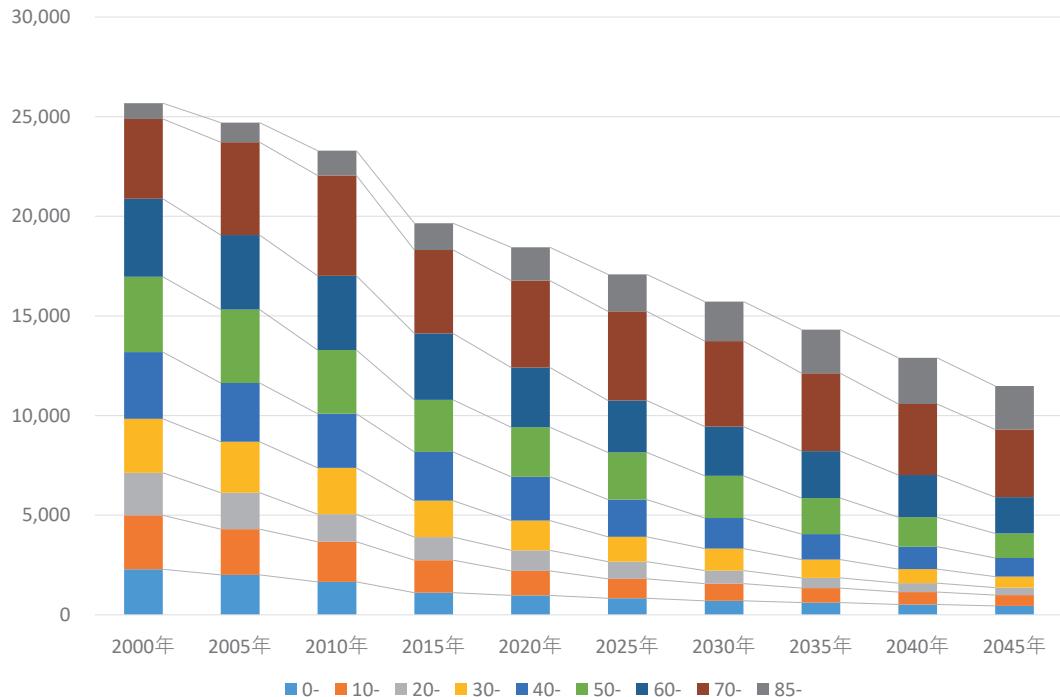
[ツイート](#) [いいね! 0](#) ページID K1002508 更新日 平成25年9月27日 [印刷](#)

協働事業提案制度は、「市民と行政が協働するまちづくり」の実現に向けて、まちづくり活動団体からの事業提案を受けつけ、地域課題を市民の視点や発想から解決し、市民生活の向上につなげていくことを目指す制度です。

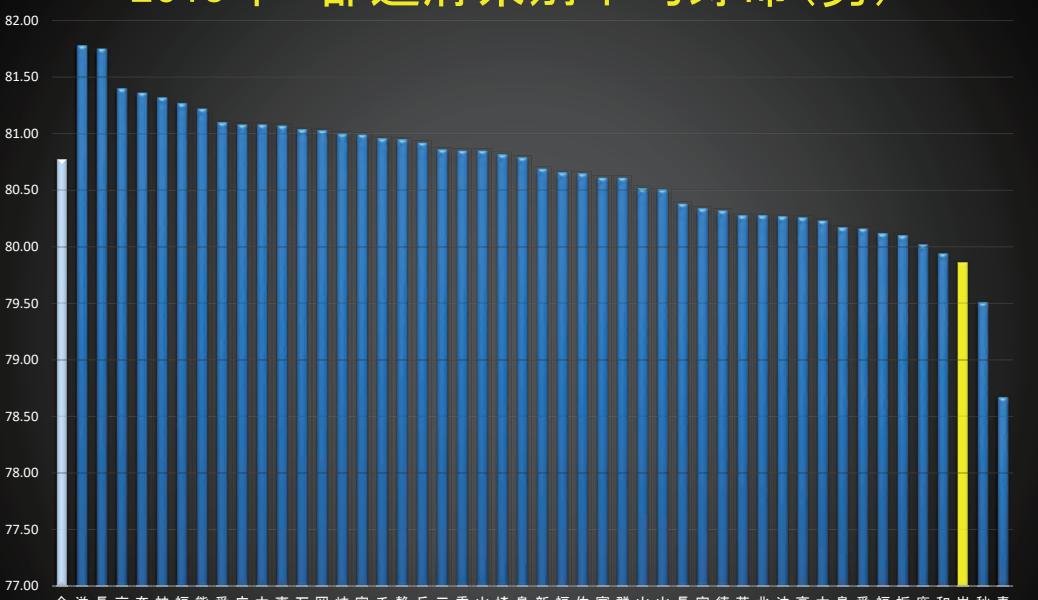
提案できる事業は、まちづくり活動団体が自由に事業テーマを設定できる「まちづくり活動団体提案部門」と、市が事業テーマを設定する「行政提案部門」の2部門があります。

提案された事業は、学識経験者や市民代表などで構成される選考委員会で候補事業を選考します。

提案をお考えの団体の方は、まず協働推進課にご相談ください。

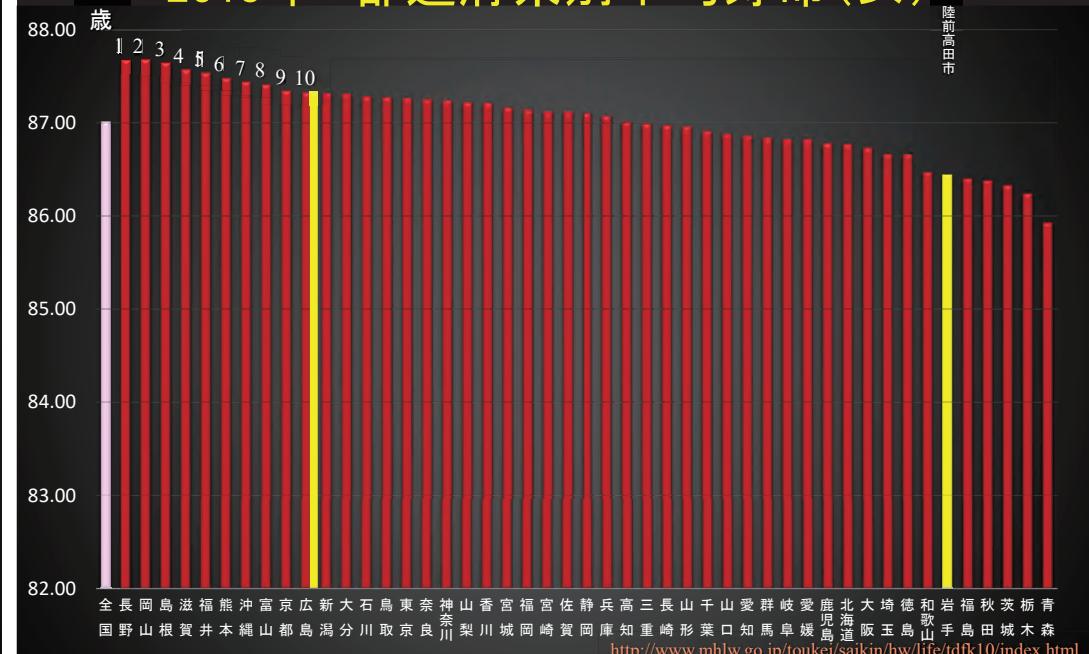


2015年 都道府県別平均寿命(男)



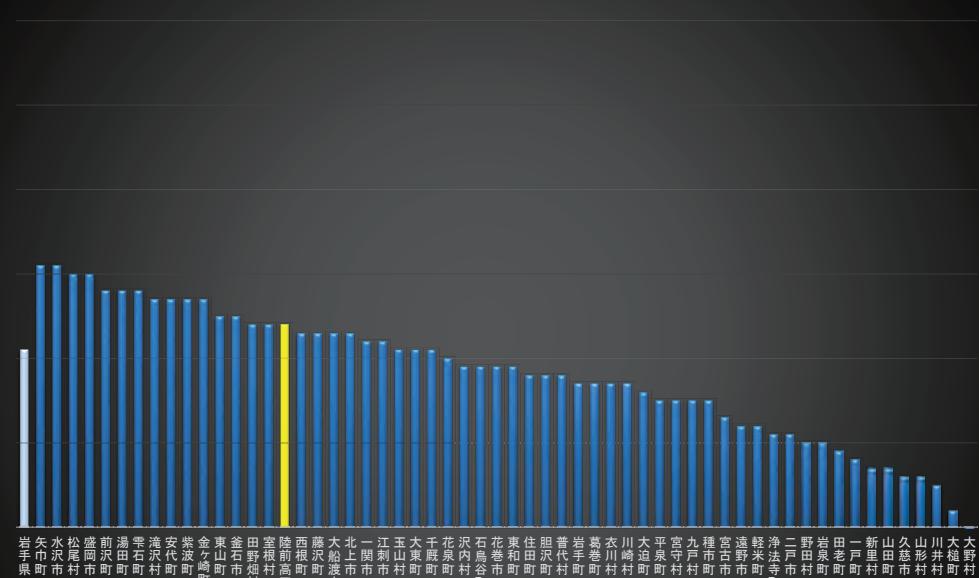
全 滋 長 京 奈 神 福 熊 愛 広 大 東 石 岡 岐 宮 千 静 兵 三 香 山 埼 島 新 福 佐 富 群 山 山 長 宮 德 茨 北 沖 高 大 烏 愛 福 栃 鹿 和 岩 秋 青 国 賀 野 都 良 川 井 本 知 島 分 京 川 山 阜 城 葉 岡 庫 重 川 梨 玉 根 潟 岡 賀 山 馬 形 口 崎 嶋 城 道 縄 知 阪 取 嫁 島 木 島 山 手 田 森
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/tdfk10/index.html>

2015年 都道府県別平均寿命(女)

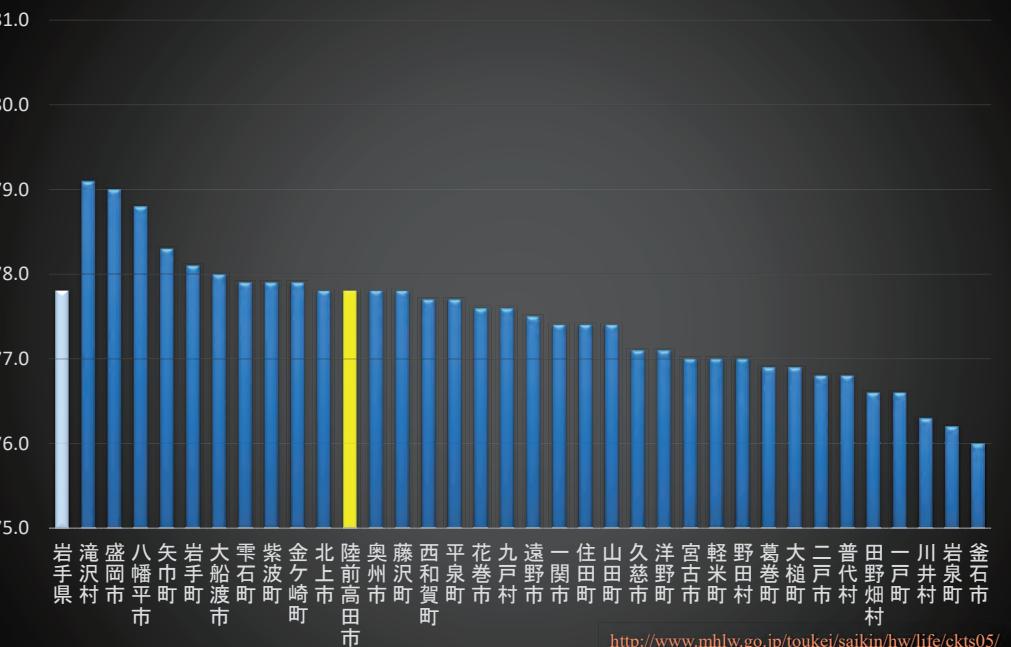


全 滋 長 岡 島 滋 福 熊 沖 富 京 広 新 大 石 烏 東 奈 神 山 香 宮 福 宮 佐 静 兵 高 三 長 山 千 山 愛 群 岐 愛 鹿 北 大 埼 德 和 岩 福 秋 荻 栃 青 国 野 山 根 賀 井 本 繩 山 都 島 潟 分 川 取 京 良 奈 川 梨 川 城 岡 崎 賀 岡 庫 知 重 嶋 形 葉 口 知 馬 阜 嫁 島 道 阪 玉 島 手 島 田 城 木 森
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/tdfk10/index.html>

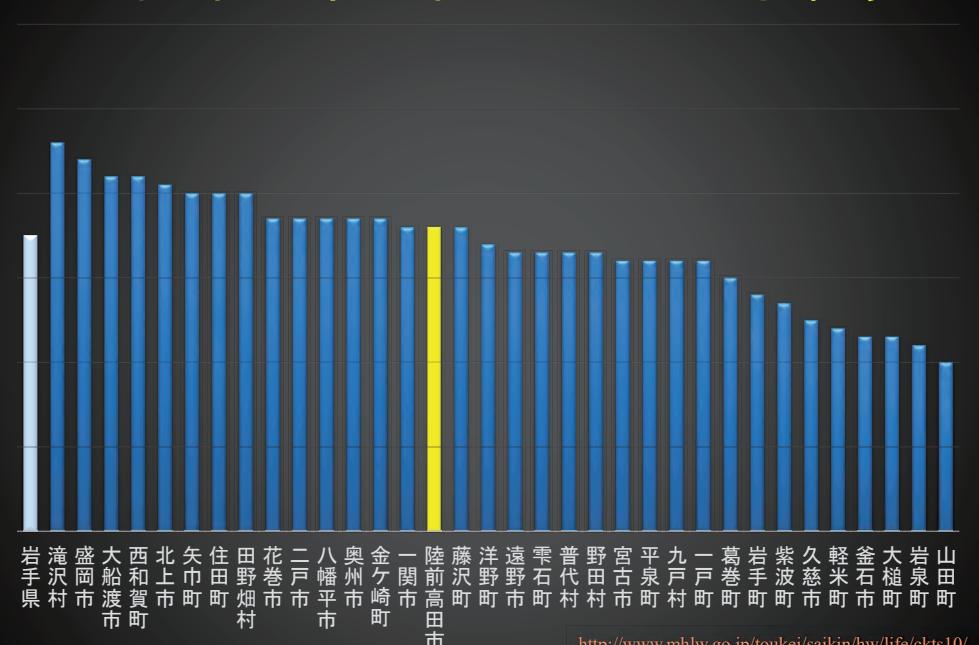
2000年 岩手県内市町村別平均寿命(男)



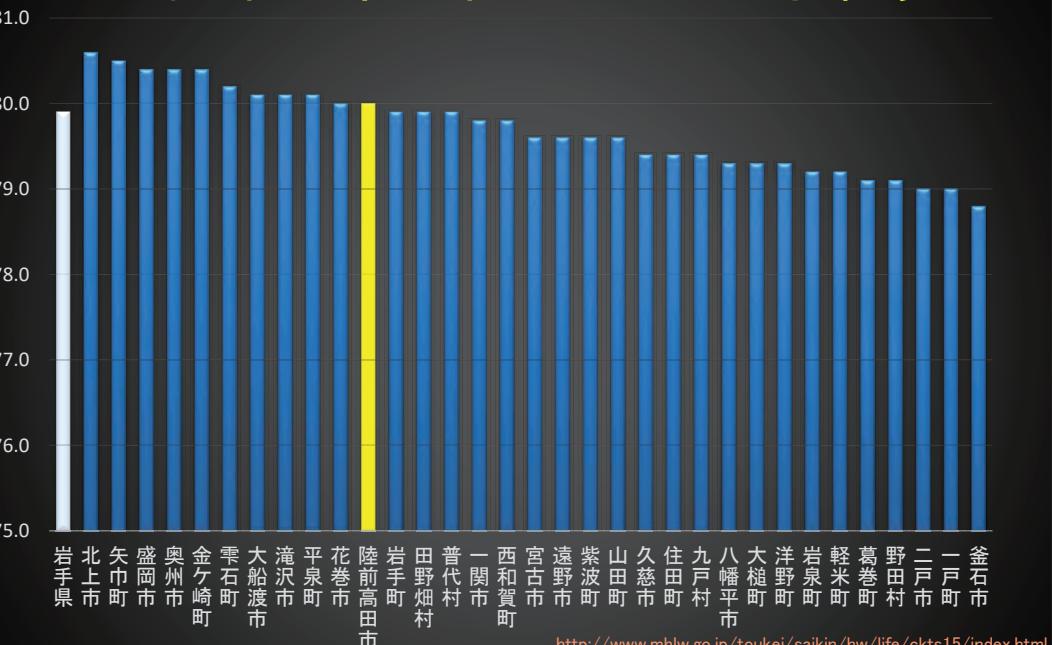
2005年 岩手県内市町村別平均寿命(男)



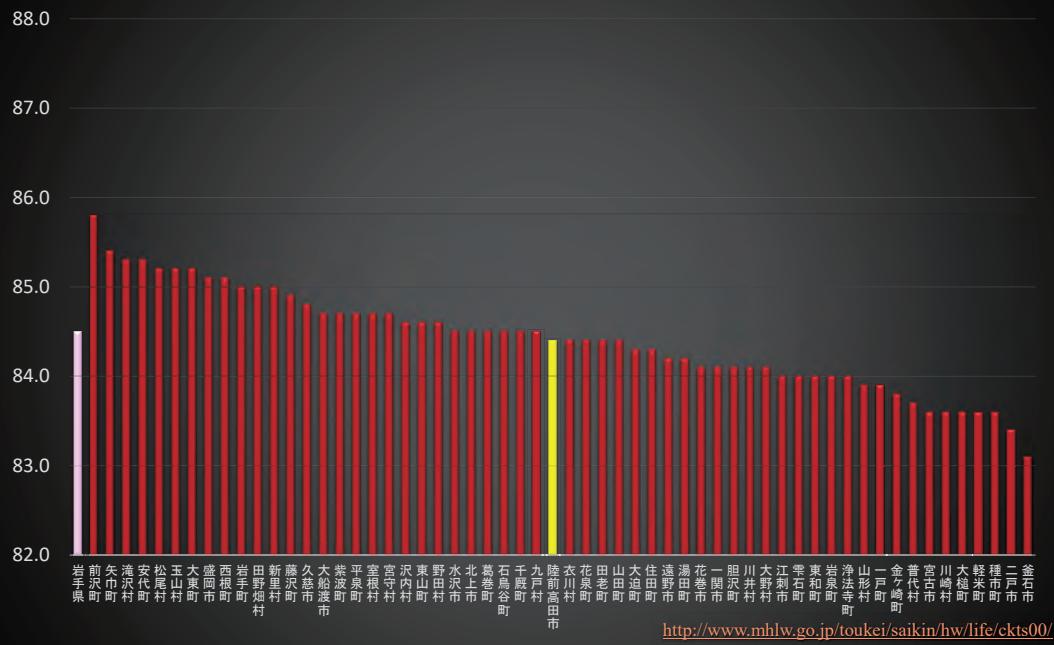
2010年 岩手県内市町村別平均寿命(男)



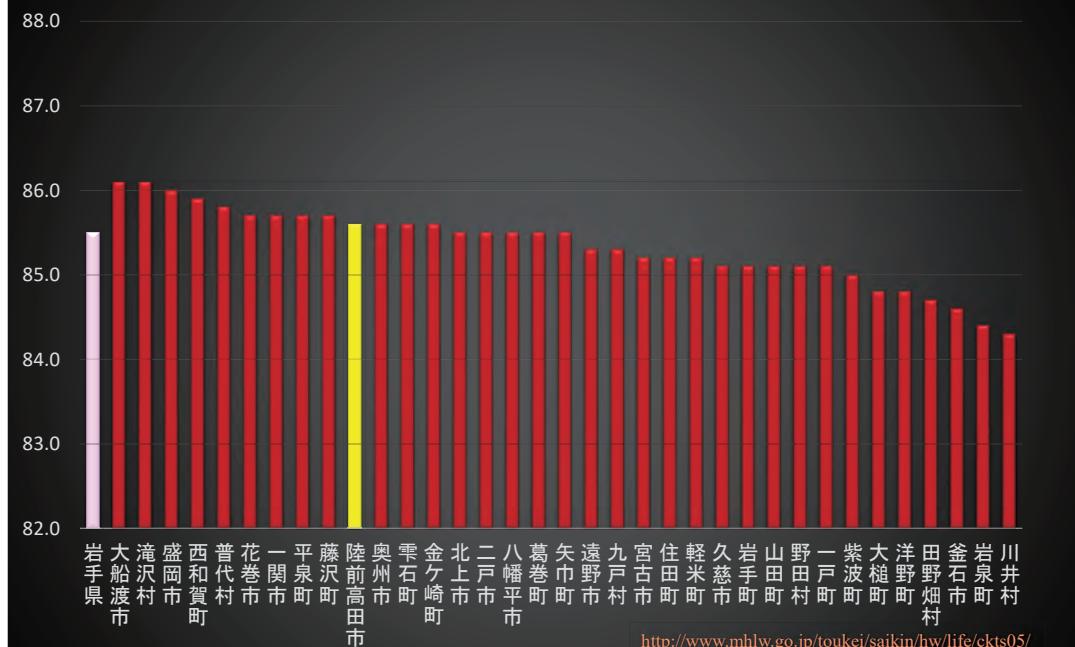
2015年 岩手県内市町村別平均寿命(男)



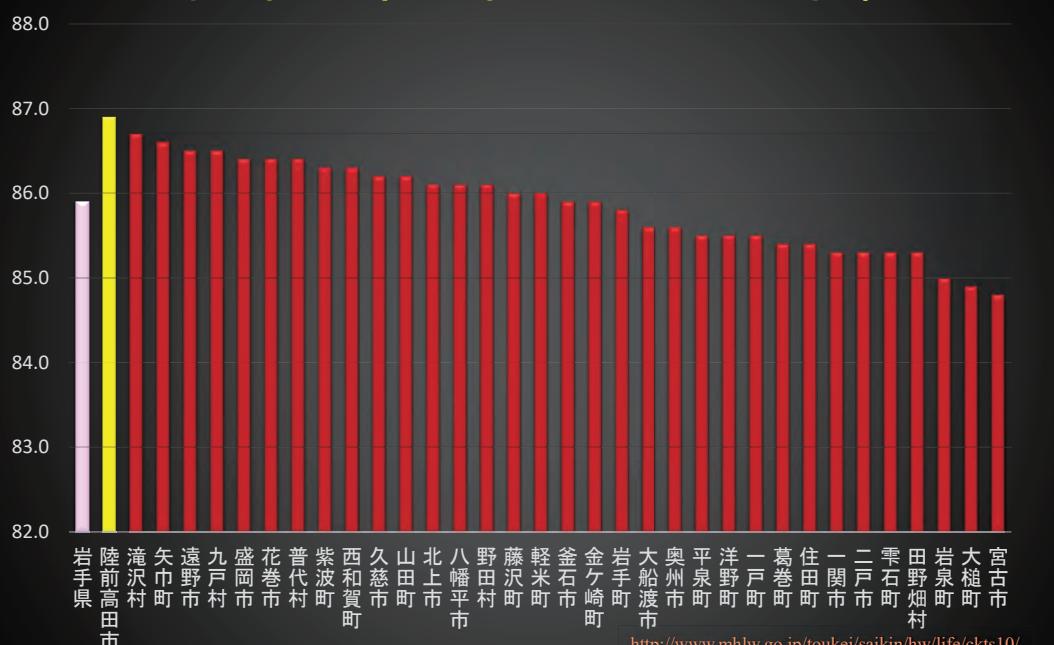
2000年 岩手県内市町村別平均寿命(女)



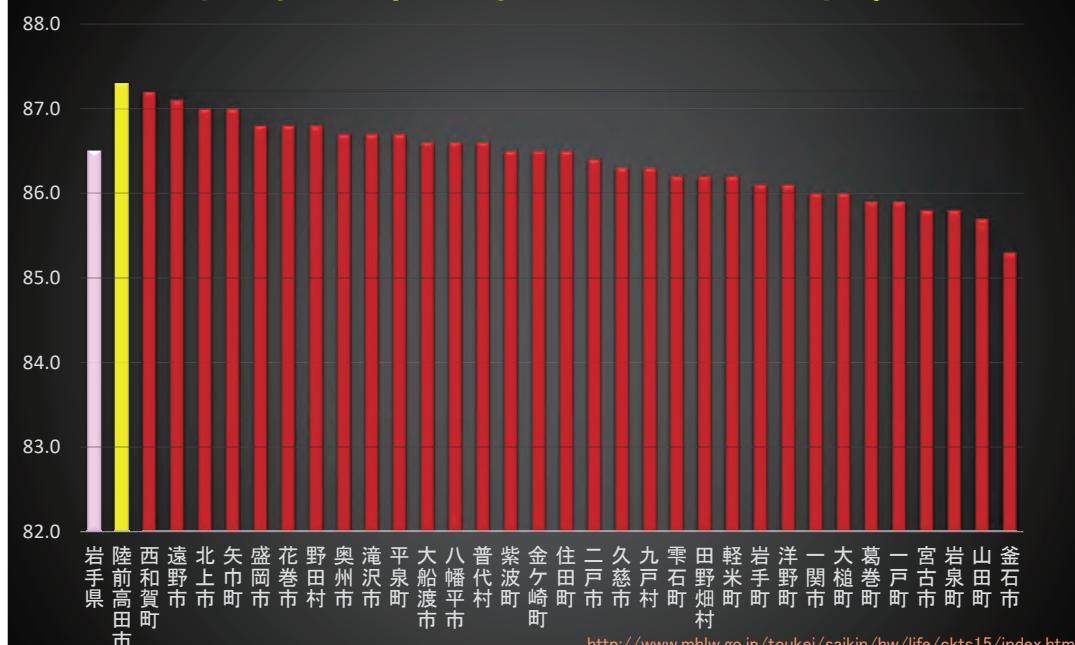
2005年 岩手県内市町村別平均寿命(女)



2010年 岩手県内市町村別平均寿命(女)



2015年 岩手県内市町村別平均寿命(女)





平成30年度第2回（震災後第88回）

陸前高田市未来図会議



平成30年10月19日（金）13：30～15：30

陸前高田市コミュニティホール 大会議室

一 次 第 一

◆本日のテーマ

移動（外出）が人を元気にする

1 開 会

2 挨 捶 陸前高田市 民生部次長兼保健課長 千葉 恭一

3 内 容

(1) 「未来図会議／本日のテーマについて」

陸前高田市 民生部保健課保健係 保健師 佐藤 沙希
陸前高田まちづくり協働センター 黄川田 美和 氏

(2) 「市内の移動を支えるための施策について」

陸前高田市 企画部まちづくり戦略室 室長補佐 佐藤 勝也 氏

(3) 「矢の浦地区の移動図書館の活用について」

村上 峯子 氏

(4) 参加者の皆さんと“はまつてけらいん、かだつてけらいん”

テーマ：「移動について、いま思うこと」

「人を元気にする移動とは～上手いこと使う、工夫する～」

(5) 「移動（外出）が人を元気にする」

陸前高田市ノーマライゼーション大使 岩室 純也 氏

4 その他

5 閉 会・アンケート記入

【次回】

平成30年12月14日（金） 13：30～15：30 陸前高田市コミュニティホール 大会議室
テーマ：「“食”から考えるはまかだ（仮）」



市内の移動を支えるための 施策について

平成30年10月19日
陸前高田市企画部まちづくり戦略室



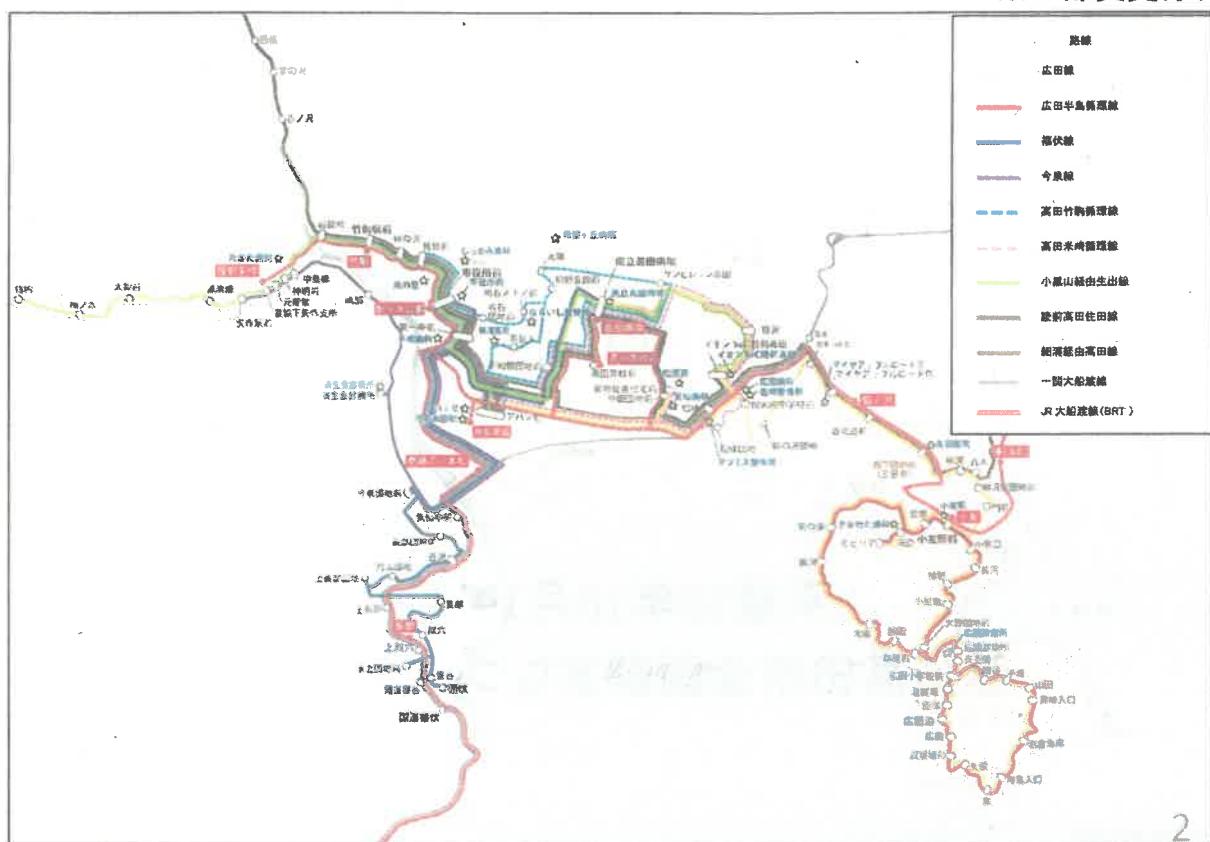
現在の市内の公共交通網



- 1 大船渡線BRT
- 2 路線バス
 - 2-1 自治体の間をつなぐバス
陸前高田住田線、細浦経由高田線など
 - 2-2 自治体の域内で運行するバス
小黒山経由生出線、広田線など
- 3 乗合タクシー
バス車両の代わりにタクシー車両(定員10人以下)を使う路線
- 4 デマンド交通 ⇒ このあと詳しく！

市内公共交通網の大まかな地図

※一部変更あり



2



公共交通の「ラストワンマイル」

陸前高田市 RIKUZENTAKATA City



「自宅からバス停までも遠くて行けない」という声が
全国で増えている



バス停までの“近くて長い”

「Last 1 mile(最後の1マイル)」
をどう解消するか



公共交通の課題となってきた

3



ラストワンマイル解決のために①

陸前高田市 RIKUZENTAKATA City



1 デマンド交通

- ・ 気仙町エリアと小友町・広田町エリアで実施
- ・ 自宅前または自宅付近から目的地の停留所まで運ぶ「ドアツードア」が特徴
- ・ 事前登録・事前予約制

平成29年度実績

	登録者数 (カッコ内は前年度比)	延べ利用者数
気仙町エリア	163人(▲9人)	810人(147人)
小友町・広田町エリア	497人(▲8人)	1,839人(▲10人)
合計	660人	2,649人

4



デマンド交通で使われている車

陸前高田市 RIKUZENTAKATA City



- ・ 通常の路線バスより小型のタクシー車両
- ・ 利用者の自宅前や自宅付近まで行けるメリット

5



ラストワンマイル解決のために②

陸前高田市 RIKUZENTAKATA City



2 ふるさとタクシー助成

- ・障がいのある方へのタクシー運賃一部助成を拡大
- ・市周辺地域に住む75歳以上の免許返納者も新たに対象
- ・助成券1枚につき500円
- ・交付枚数：免許返納者月6枚、障がいのある方月4・6枚

平成29年度実績（全対象者の合計）

延べ利用人数	延べ利用枚数	利用額
1,188人	5,370枚	2,685千円

6



ラストワンマイル解決のために③

陸前高田市 RIKUZENTAKATA City



3 支え合い交通

- ・地域住民が自ら仕組み作り
- ・運転手は主にボランティア、車は主に自家用車
- ・経費は運賃や、世帯の負担金などで賄う

※市では平成27年度に矢作町生出地区で「おいでみんなのバス」という実証実験を実施

7

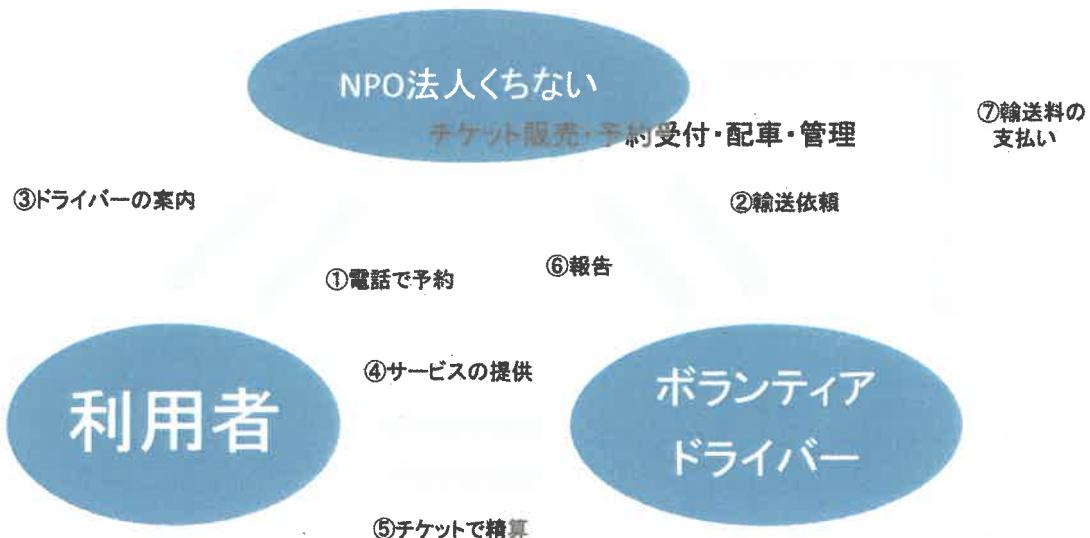


ラストワンマイル解決のために③

陸前高田市 RIKUZENTAKATA City



支え合い交通の例：北上市口内地区「NPO法人くちない」のボランティア輸送



8



ラストワンマイル解決のために④

陸前高田市 RIKUZENTAKATA City



4 コミュニティ・カーシェアリング

- ・自治会や災害公営住宅などで車を共同利用
- ・経費負担、鍵の管理、予約方法などは利用者同士でルールを作る
- ・住民自身がカーシェアリングを運営することで、コミュニティづくりにつなげる

先行事例…(一社)日本カーシェアリング協会

宮城県石巻市などで仮設住宅・災害公営住宅におけるコミュニティ・カーシェアリングを展開 <http://www.japan-csa.org/>

9

認め合う気持ちを養う

大船渡

「移動」をテーマにアイデアを探った未来図会議=高田町

解消策として、基本的に自宅付近から目的地の停留所まで運行する「樂器」となって、手拍子やかけ声で参加していました。



陸前高田市
未来図会議

移動手段テーマに活発協議 市民こそつてアイデア探る

陸前高田市未来図会議は19日、高田町の市民ミニユースホールで開かれた。会議は、住みよいまち形成へのアイデアを市民一体とな

く、他分野も巻き込んで行われており、今日は「移動(外出)」を

テーマに自由に意見を交わした。

同会議は、「はまつて(仲間に入って)かだる(話す)」場を増やし、市民が互いに心を通わせる「はまつてけらいいん、かだつてけらいいん運動」(略称・はまかだ)を推進し、

同市が掲げる「ノーマライゼーション」という言葉のいらないまちづくり」を実現しようとして立ち上げられた。

昨年度まで保健・医療・福祉分野の関係者が定期的に集い、「はまかだ」に関するさまざまなテーマのアイデアを出し合ってきた

通のように、将来的には民間の力を生かしていくことが持続可能な公共交通にもつながる」と呼びかけた。

9月に運行が再開され、この日は約30人が参

加。はじめに、市まちづくり戦略室の佐藤勝也室長補佐が「市内の移動を支えるための施策について」をテーマに講話した。

佐藤室長補佐は、市内の中学校による森林環境園年長児を対象とした「森の保育園」は19日、種山ヶ原森林公園で行われた。子どもたちは公園内を散策しながら、ドングリなどを拾い集め、秋の深まりを感じとった。

森の保育園事業は、このほか、松ぼっくりや赤く染まったカエデの葉なども採集。首にぶら下げたビニール袋には、色とりどりの葉が集まつた。

年長児の菅野翔吾君(6)は「坂道を上りながら探すのが楽しかった。いっぱい拾つた」と話していた。

解消策として、基本的に自宅付近から目的地の停留所まで運行する「移動」をテーマにアイデアを探った未来図会議=高田町

題を示した。

佐藤室長補佐は、市内の中学校による森林環境園年長児を対象とした「森の保育園」は19日、種山ヶ原森林公園で行われた。子どもたちは公園内を散策しながら、ドングリなどを拾い集め、秋の深まりを感じとった。

今回、講師を務めたのは自然ガイド「すみ

れの森」の「まゆり号」に関する事例発表のあと、参加者が六つのテーマに分かれて協議。「人は元気にする移動と

車「はまゆり号」を中心に、移動手段のない人の足を確保する「支え合い交通」を取り組む全国の先進事例などを紹介。「支え合い交

通」のように、将来的には民間の力を生かしていくことが持続可能な公共交通にもつながる」と呼びかけた。

9月に運行が再開され、この日は約30人が参加。はじめに、市まち

づくり戦略室の佐藤勝也室長補佐が「市内の移動を支えるための施策について」をテーマに講話した。

佐藤室長補佐は、市内の中学校による森林環境園年長児を対象とした「森の保育園」は19日、種山ヶ原森林公園で行われた。子どもたちは公園内を散策しながら、ドングリなどを拾い集め、秋の深まりを感じとった。

今回、講師を務めたのは自然ガイド「すみ

れの森」の「まゆり号」に関する事例発表のあと、参加者が六つのテーマに分かれて協議。「人は元気にする移動と

車「はまゆり号」を中心に、移動手段のない人の足を確保する「支え合い交通」を取り組む全国の先進事例などを紹介。「支え合い交

通」のように、将来的には民間の力を生かしていくことが持続可能な公共交通にもつながる」と呼びかけた。

9月に運行が再開され、この日は約30人が参加。はじめに、市まち



園児=種山ヶ原あり

た「スマート交通」や、住民自ら運転手を務め、移動手段のない人の足を確保する「支え合い交通」に取り組む全国の先進事例などを紹介。「支え合い交

通」のように、将来的には民間の力を生かしていくことが持続可能な公共交通にもつながる」と呼びかけた。

9月に運行が再開され、この日は約30人が参加。はじめに、市まち

づくり戦略室の佐藤勝也室長補佐が「市内の移動を支えるための施策について」をテーマに講話した。

佐藤室長補佐は、市内の中学校による森林環境園年長児を対象とした「森の保育園」は19日、種山ヶ原森林公園で行われた。子どもたちは公園内を散策しながら、ドングリなどを拾い集め、秋の深まりを感じとった。

今回、講師を務めたのは自然ガイド「すみ

れの森」の「まゆり号」に関する事例発表のあと、参加者が六つのテーマに分かれて協議。「人は元気にする移動と

車「はまゆり号」を中心に、移動手段のない人の足を確保する「支え合い交通」を取り組む全国の先進事例などを紹介。「支え合い交

通」のように、将来的には民間の力を生かしていくことが持続可能な公共交通にもつながる」と呼びかけた。

9月に運行が再開され、この日は約30人が参加。はじめに、市まち

づくり戦略室の佐藤勝也室長補佐が「市内の移動を支えるための施策について」をテーマに講話した。

佐々木義郎さん(80)は、「まゆり号」の運行を

けせん

次回(平成30度第3回)未来図会議予定

◆日時

平成30年12月14日(金) 13:30～15:30

◆メインテーマ(仮)

“食”から考える はまかだ

◆会場

陸前高田市コミュニティホール大会議室

未来図会議

事後アンケートに
ご協力をお願ひいたします。

平成30年度 陸前高田市未来図会議の予定

○日程

平成31年

④ 2月15日(金)13:30～15:30